

序文

管理栄養士の必修科目の中で、給食管理が給食経営管理論と名称変更になって10年余が経過しました。栄養士法の改定に伴い、管理栄養士のありかたと養成課程における教育目標が論議され、管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム、管理栄養士国家試験ガイドラインに定められたねらいを達成すべく、給食経営管理論の教科書も良書が世に多く出されています。前書『給食管理』は、1985年に初版が発刊されて以来、多くの管理栄養士・栄養士養成施設で教科書として採用され、また参考資料としても使われて参りました。30年の間には、栄養士法の改正、健康増進法の制定という、歴史的にも大きな制度改正がありました。加えて、給食施設に関わる様々な制度の変更、給食周辺の社会環境の変化は、大きな流れとなつてとどまることがありません。その変化に対して、改訂を重ねながら、依然として給食経営管理論を担当される教員の皆様から絶大なる支持が寄せられております。これは、前書『給食管理』の編著にあられた、鈴木久乃先生、羽田明子先生、太田和枝先生、殿塚婦美子先生のご功績によるものです。『給食管理』は、集団給食と言われていた分野に、科学的管理の概念を取り入れた先駆的教科書と言えましょう。

現在、健康、栄養、福祉分野で管理栄養士に求められる能力として「マネジメント力」が大きく位置づけられています。『給食管理』の各章の中では、30年も前に給食運営業務の中でマネジメントの重要性が説かれています。後継の教科書として本書は、大きな荷を負って改訂がスタートしました。

本書の企画にあたり、編者としての共通の思いは、前書の良さを継承しながら、時代の要請に沿える教科書にしたいということでした。管理栄養士養成課程のカリキュラムでは、教育目標を、「給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する」とし、栄養士養成課程のカリキュラムでは、教育目標を、「給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得する」としています。管理栄養士・栄養士養成施設の卒業生の多くが、各種の給食施設において給食の運営やマネジメント業務を担うべく巣立っていきます。本書は、管理栄養士養成・栄養士養成いずれにおいても教科書として採用いただく

ことができるように、それぞれの養成課程のカリキュラムのねらいを考慮し、「給食の運営」の上に、「給食経営管理」を積み上げるような構成にいたしました。執筆は、給食の運営・経営管理に関する経験のある方々および実際に給食経営管理論等を担当されている方々です。

給食分野における、管理栄養士・栄養士に求められる専門性は、給食そのものを取り巻く制度、社会環境、技術の変化のうねりの中で、絶えずマイナーチェンジを繰り返しながら、知識・技術を更新していくことが求められます。変化のうねりを見据え、適宜軌道修正を図ることも必要と考えます。内容・構成についての課題もあり、編者のかじ取りによる責任が大ではございますが、お読みいただく中で、あるいはお使いいただく中で、ご助言・ご意見をいただけますようによりしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、第一出版の加藤友昭社長、井上由香氏、花岡里沙氏にご尽力いただいたこと深く感謝申し上げます。

平成 26 年 9 月

編者一同